



「部活の活動で、生きものについての価値観が変わった。今は、わざと植物を踏みつけたりできない。」「生きものを触ったり



するようになり、蚊だって生きているんだと感じるようになった。」「ゴーヤがまっすぐに伸びているのを見て、自分も頑張らなくちゃいけないと思った。」「学校にいるイモムシを調べ楽しくなってきた。」

—板橋区立中台中学校—

中里先生(左から2人目)と部員の皆さん

板橋区立中台中学校の科学部が、10月17日(土)にも活躍中と聞いて、指導者の中里直先生(理科)と部員の生徒たちをおたずねして話を聞くことができました。普段だと、授業や、生徒会の活動で忙しく、科学部の活動は、土日に充実しているようです。

先生の開口一番の言葉「大学時代コンビニでアルバイト中に、賞味期限の切れたおにぎりでバスケットボールをしている高校生がいた。注意したら、「捨てるものをどうしようと勝手だ。」といわれ、口論になったが分かってもらえなかった。これは食料教育をやらないとだめだ!と思ったのが始まりでした。」なるほど、衝動的な動機です。それから、中里先生は、食

…2ページへつづく…

## センスオブアース主催 「秋の自然観察会」のお知らせ

センスオブアースが2004年以降続けてきた自然観察会。

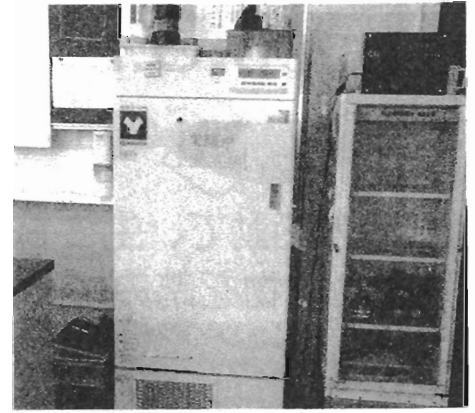
都市の中の街路や公園に残る貴重な虫や鳥、荒川の生き物など、毎回講師を招いて身近な環境の季節の姿を通じて自然への認識を深めてきました。

創設5周年の今年、これまでの自然観察会にネイチャーゲームを取り入れ、より豊かな自然体験の場を目指していきます。

(お申し込方法など詳細は3ページをご覧ください)

料の大切さを教えたいと学校農園を作り始め、3校目になるそうです。実践を続ける中で、農園には体験学習の場以上の価値があることに気づき、バイオテクノロジーで食料生産をしたり、環境教育として農園を利用したりしました。

食育基本法は、栄養や食べものの教育に傾き、食料生産教育が軽視されていることが課題です。現在茨城大工学部と連携して、植物の空調効果の研究を恒温器で実験中です。」と理科室におかれた、植物の実験中の大型恒温器の前でお話ししてくださいました。なるほど、その通り、日本の食料自給率は40%、不足の60%は世界の食料を買い集めている、そして、外国に食料支援している量の3倍は「捨てている国！」先進国の中で最低の食料生産実態です。



生徒たちは、熱心にコーチの小石裕之さんの助言を聞きながら、水槽に飼っているメダカなどの生きものの世話をしていました。生徒たちの表情がみんなとても落ち着いていて、そして、真剣でした。高校生のような雰囲気さえ漂いました。

### —科学部の取組を通して、どんなことを感じたり考えたりしていますか？—



「部員が3人から、7人に増え、農園が畑らしくなりました。部活で生きものについての価値観が変わりました。前は、植物を踏みつけちゃったりしていたが、今は植物を踏んだりすることはないです。」科学部員の中には生徒会長がいて「生徒会に入ったことは、人のためになることだったが、実は自分のためになった。責任感がついたり、信頼をされるようになった。」部活や次期生徒会長の活動を通して中で獲得した自信と、堂々とした表現力が身についた2年生の鈴木裕人さんでした。

「科学部員は生徒会活動も手伝うので、いそがしい。ゴーヤとアサガオでは、ゴーヤの方が生命力が強いのでは？ ヘチマは9月の方が元気です。」と3年副部長の鈴木裕登さん。私の疑問に答えてくれました。さすが、体験しないと出てこない学びの言葉です。

「畑だけでなく、緑のカーテンづくりも挑戦した。ゴーヤがまっすぐ伸びていく力強さを見て、自分もがんばらなくちゃいけないと思った。学校にいるイモムシを調べた。前は嫌いだったけど、観察するのがだんだん楽しくなってきた。ハグロバチ、マイマイガ、ナミアゲハ、モンクロシャチホコ等普段意識して見ないところに小さな生き物がいることを学んだ。」3年科学部部長伊藤俊さんの科学するたのしみを語る態度・そして実感のこもった言葉でした。

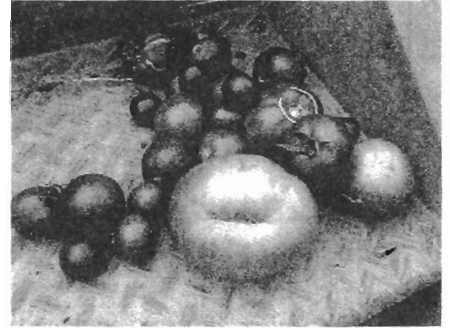
「生きものを見ていて観察するのは面白いが、触ったりするようになって、身近な生きもの、例えば蚊などにも愛着がわいてきた。芝生などを、むしらなくなりました。」1年生の荒井京之介さん。落ち着いた態度で、2年生ぐらいに見えました。植物や、生きものを通した環境教育・食農教育はこうした態度を養っていくのだなとしみじみ教育の素晴らしさを感じました。

4人の部員に共通して感じたこと、中聖先生が目指している、「実態を体験しない上位下

達式の教育でなく、毎日継続しているものから感じ取らせること、継続が大事！」観察、飼育、農作業を通して、自己表現力、コミュニケーション能力、環境への思考力、判断力などを育てる目標が、子どもたちに現実に身につけていることに驚きました。

そのあと、科学部の汗と努力の農園や植樹栽培を見せていただきました。校庭より一段下がった場所—中台中は武蔵野台地の東の本当の先端の中台地に立地している。海にそそぐ海岸沿いの高台に、石器時代からの遺跡が広がる台地です—に、40坪ほどの畑があり、たくさんのトマトがなっていました。(今年は、メロン・スイカ・キュウリ・ゴーヤ等も収穫)早速本日の収穫。

いかにも、里山の狭い平地に畑を作っている農家の趣が漂いました。



その後、シラカシの植樹場所に行くと、50鉢以上のシラカシの幼木が育っていました。生徒会で、もう5~6年育てているようで、いつか、どこかの場所に植樹され、大きな大木(10~20Mの常緑樹)に育つ日を夢見て、毎日水やりが続けられていました。(左写真)

これらの活動以外に、生徒会として、リデュース・リサイクル・リユースの3Rの活動や、省エネの取り組みで、使わない電気を消す・水道の出っぱなしを

やめるなど、啓発活動を行い、率先して学級の役員や、生徒会の役員が行動しているとのこと。中学生らしい実行力がうれしいですね。

この取組等で、10月31日に第2回サイエンスアゴラ(科学と社会をつなぐ広場、科学技術振興機構主催)へ、中学生として出場発表するとのことでした。

さすがの取り組みですね。最後に取材した4人の部員の言葉「植物が好き!」(入ってから好きになった人も)だそうです。(取材:SOE 寺田)

## 秋の自然観察会は11月22日(日)

集合場所:板橋区立美術館前の溜池公園 集合時間:10時(受付は15分前から)

予定:10時~「自然観策会」赤塚公園城趾地区周辺

11時45分~「ネイチャーゲーム体験」赤塚公園沖山地区周辺

12時30分~「バーベキュー交流会」赤塚公園中央地区周辺

参加費:無料(ただし、バーベキュー交流会は参加費1,000円となります)

自然観察会講師は藤本和典先生(シェアリングアースの代表であり、センスオブアースのメンバーでもあるナチュラリスト。コスタリカの自然案内人としても有名)

お申し込み方法:お名前、ご連絡先電話番号、バーベキューご参加の有無をご記入の上、メールまたは、FAXでお申し込みください。(締め切りは11月19日)

メールアドレス: info@npo-soe.jp FAX: 03-3960-6053

## ◎ S.O.E. 活動報告 (2009年10月)

日	曜	内 容
2	金	平成21年度第1回 板橋区環境教育プログラム部会参加
5	月	SOEニュース原稿関係校正
9	金	北区立自然ふれあい情報館主催平成21年度 北区環境リーダー養成講座第2回 「 ビオトープを教育に生かす」講師
11	日	SOE ワークショップ 10月講演会・授業準備 SOE 10月号ニュース発行作業日
16	金	日本女子大学人間社会学部文化祭一日女祭—SOE展示 準備
17	土	板橋区立中台中学校 科学クラブ活動 指導者 中里直教諭取材
18	日	SOE・エコポリスセンター共催「エコライフDAY 取り組みの成功の軌跡」 NPO法人川口市民環境会議理事長 浅羽理恵氏 講演学習会 於エコポリスセンター 2階環境学習 1時30分～3時30分
25	日	SOE ワークショップ—10～11月授業準備
29	木	出前授業 板橋第七小学校5年全 5,6校時「食べ物はどこから—フードマイレージを学ぶ」
30	金	第2回 板橋区環境教育プログラム部会参加—今年度提案プログラム提案

## ◎ S.O.E. 活動予定 (2009年11月)

1	日	11月3日板七小4年とうふづくり準備—用具・材料・プログラムの流れ
2	月	同上 材料買い物・スタッフ連絡・学生スタッフへ事務連絡
3	火	11月号 ニュース原稿 学校関係 送付校正
4	水	板橋区立板橋第七小学校 4年生 板七産とうふを作ろう 出張授業
5	木	11月号ニュース原稿関係
6	金	ニュース編集者と連絡打合せ・志村第四小と出張授業打合せ
8	日	SOEニュース11月号発行作業日
11	火	秋の自然と遊ぼう 板七小2年生生活科出張授業 —こもりとがのネイチャーゲーム・かたち探し探検
22	日	藤本和典さんと歩く「秋の赤塚城址・赤塚公園」感察会 10～12無料 BBQ 赤塚公園内 自由参加 (BBQ参加実費千円当日集金)
26	木	区内小学校出張授業 秋の自然と遊ぼう—ネイチャーゲーム 予定日
29	日	SOEワークショップ 12月～出張授業準備等

## ◎会員募集中◎

センス・オブ・アースの活動を知りたい方、入会をお考えの皆ご案内のパンフレットを用意しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053  
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp